



THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A. THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

山梨県甲府市中央5丁目4-11
山梨YMCA青少年センター
〒400-0032 TEL 055-235-8543
FAX 055-235-8553

国際会長主題：ともに、光の中を歩もう
アジア太平洋地域会長主題：ワイズ運動を尊重しよう
東日本区理事主題：広げよう ワイズの仲間
あずさ部長主題：継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう
甲府21クラブ会長主題：実現可能な目標定め 山梨YMCAを支援しよう

Henry Grindheim (ノルウェー)
Tung Ming Hsiao (台湾)
栗本 次郎 (熱海)
大野 貞次 (東京西)
佐藤 重良

甲府21ワイズメンズクラブ
2018年1月会報
強調月間
IBC/DBC

今月の聖句

イエスはまた群衆にも言われた。「あなたがたは、雲が西に出るのを見るとすぐに、『にわか雨になる』と言う。実際そのとおりになる。また、南風が吹いているのを見ると、『暑くなる』と言う。事実そうなる。偽善者よ、このように空や地の模様を見分けることは知っているのに、どうして今の時を見分けることを知らないのか。」

ルカによる福音書12章54-56節 稲垣浩司 選

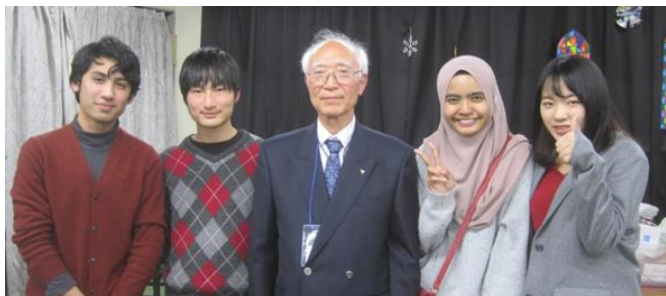
会長挨拶

甲府21ワイズメンズクラブ会長 佐藤重良

明けましておめでとうございます。

昨年は山梨YMCAへのバザーをはじめとした様々な支援活動を実施し、CS活動では障害者に対する支援活動を展開してまいりました。甲府21クラブ全員のご協力に感謝いたします。また会員の増強についても、7月に米長晴信メン、12月に山本敦夫メンに入会していただき、年度2名の目標を達成できました。皆様のご努力に感謝申し上げます。

今年は新しい企画に挑戦となります。まず2月にはあずさ評議会のホストとなります。甲府21の結束力でおもてなしをし、成功させましょう。4月には、初めての挑戦となるベビーカーコンサートを予定しています。大変大きな行事ですが、子育てのママと幼児のために楽しく意義あるコンサートにしたいものです。今年もさらに楽しく、有意義な活動をしたいと思えます。クラブ員全員のご協力をお願い申し上げます。



クリスマス例会に招いた山梨大学の留学生と佐藤会長
2017年12月10日＝甲府市・山梨YMCA青少年センター

2018年新年合同例会プログラム

日時：2018年1月9日(火) 18:00～20:30

会場：ホテル談露館 山梨県甲府市丸の内1-19-16
TEL 055-237-1331

第1部「もてなしの新年茶会」 18:00～
(2階入口のロビーにて)

- 第2部「新年合同例会」 18:45～
- ・開会点鐘 丹後佳代甲府クラブ会長
 - ・言葉/ワイズソング/ワイズの信条
 - ・会長挨拶 丹後佳代甲府クラブ会長
佐藤重良甲府21クラブ会長
 - ・ゲスト紹介 各クラブ会長

第3部「懇親祝い会」 19:05～

- ・食前の祈り
- ・乾杯/ワイズディナー
- ・琴と尺八演奏(会場内舞台にて)
- ・諸報告
- ・ハッピーバースデー
- ・YMCAの歌
- ・閉会点鐘 佐藤重良甲府21クラブ会長

【1月の誕生者】

- 【メン】該当者なし
- 【メネット】中島千香(1月1日生)
清藤和子(1月11日生)

在籍者数	26名	項目	ニコニコボックス	バザー収益金	クリスマスオークション	BCコンサート募金	街頭募金ファンド	切手
第1例会出席者数	25名	目標値	250,000	50,000	50,000	50,000	50,000	5,000g
第2例会出席者数	14名	12月の計	49,480	—	73,225	—	—	60g
メイキャップ他行事参加	5名	12月末までの合計	151,270	15,050	73,225	—	—	960g
出席率	96%	達成率	60.50%	30.10%	146.50%	0.00%	—	19.20%
記入担当	寺田	記入担当	古屋	古屋	古屋	古屋	古屋	相川

2017年12月例会報告

甲府21ワイズメンズクラブ書記 寺田喜長



沼田三郎氏への感謝状を読み上げる佐藤会長
2017年12月10日＝甲府市・山梨YMCA青少年センター

去年のクリスマス例会は大勢のゲストをお迎えし、入会式も行われ、厳粛に、楽しく盛会に開かれました。今年度2回目の入会式にて山本敦夫氏を新メンバーにお迎えし、南甲府教会の高津牧師に奨励を頂きクリスマス祝いをしました。祝会ではバザーでの野菜の栽培の畑提供、栽培指導を頂きました沼田様に感謝状をお渡しいたしました。今回初めて山梨大学の留学生をお招きし、ワイズの活動を知って頂きながらささやかな国際交流となりました。アトラクションでの地元アイドルグループ「FUJI SAKURA 塾」の子供たちの歌と踊りに普段あまり接することのない世界に多くの出席者が唖然としながらも今の若い時代を経験いたしました。最後は恒例のオークションを名進行係により、皆様の協力を頂きました。

大野あずさ部長、菰刈事業主査のご両名様には3度目の例会参加頂き遠方よりの出席に感謝いたします。甲府YWCAの皆さま、山梨YMCA職員の方々とのお交わりを持つ機会となりました。最後になりましたが、沼田三郎様より篤志を頂戴いたしました。有り難うございます。

日時：2017年12月10日(日) 17:00～

会場：山梨YMCA青少年センター

出席者：[メン] 相川 赤根 稲垣 萩野 小澤(公) 鎌田 駒田 功刀 興水 後藤 佐藤 清藤 茅野 寺田 奈良田 野々垣 廣瀬 古屋 松村(禎) 松村(豪) 葉袋 山県 米長
[メネット]

相川 萩野 駒田 清藤 寺田 奈良田 野々垣 廣瀬 古屋 松村(仁)

[ゲスト]

高津俊(南甲府教会牧師) 大野貞次(あずさ部長・東京西)

菰刈光彦(あずさ部会員増強事業主査・東京サンライズ)

田草川すみ江 五味優子 中島千香(以上3名甲府YWCA)

沼田三郎夫妻 山本敦夫夫妻 長田陽一 露木淳司総主事

中田久仁 中田純子 渡辺賢一郎(以上3名山梨YMCA職員)

山梨大留学生ANWRさん他3名 ※敬称略

クリスマスの夢 (マタイによる福音書 1章18～24節)

日本キリスト教団 南甲府教会 高津 俊牧師

これまで様々な機会に多くの出会いを経験したが、関わりを維持するのは大変なことだと思っている。時間、空間、価値観の違いなどの限界を理由に埋もれ、忘れ、軽んじ、捨ててしまった出会いと関わりは少なくない。

「関わりなければ」というコトバに心を揺さぶられた。県民クリスマスで聴いたブルースだった。関わりを持たなければ、知らないままであるし、学ぶことも心を揺さぶられることもない。愛というコトバを言い換えると、関わる、大切にすることである。他者と出会い、大切に、いつも傍らに居たいと思う気持ちと言えらる。

ヨセフはマリアと出会った。二人だけの関係を大切にはぐくむつもりだった。そのマリアが身ごもっていることに愕然とした。身に覚えはない。二人だけで踏み出そうとした、新雪の道に、すでに他者の足跡があることがわかった。若いヨセフは新しい出会いを他に求めようとした。表ざたにしなかったのは、ヨセフの優しさであろう。公にすれば女は石打ちにされる。しかし夢で、マリアを妻に迎え入れて、生まれる子をイエスと名付けて育てよ、との天使からの命令を聞き、受け入れた。

人の命は、その創始に超越した出来事によって始まったと考える。それが爆発かプラズマか、あるいは創造主のロゴス(ことば)によるのか、明らかな証拠を示すことは人間にはできない。およそ2000年前にベツレヘムで生まれ、その生涯のうち3年ほどの活動で多くの人に慰めと希望とを与え、十字架による壮絶な死と、空っぽの墓という不思議な復活の記憶を人類に刻みつけたイエスという人が救い主であると信じて従う人々は、創り主が人間に命を与えたと信じている。最初に人間と関わったのはこの創り主であった。しかし人は創り主から離れ、自分だけで生きることができると思うようになった。創り主は、関わりを保つために人間に生きる糧を与えたというのに、人は背を向けて離れ、存在を否定した。創り主が人となって地上に来た、というのがクリスマスの真意である。関係を切ろうとしたヨセフに関わり、ユダヤ人をはじめローマ人やギリシア人、そして今日の私たちとも出会い、関係を維持する愛の業を提示している。招きに応じた信徒たちの集会のただ中に居られ、時には人間の出会いと破れの狭間に、姿は見えないけれど立ってくださり、時には夢で語りかけている。平和をもたらす愛を啓示している。創り主との出会いが、クリスマスにより再び始まり、維持するための知恵が語られる。イエス・キリストに倣って、出会い、関わり、互いに愛し合い大切にすることを身につけることで、平和を実現したいと思う。YMCAの活動はこれを土台としていて、出会いと互いの尊重を実践していると思う。創り主からさしのべられたキリストという関わりの手で握手で応じ、関わってくださる恵みをご一緒に喜びたいと願っている。クリスマスの喜びが皆さんにあるように！

(2017年12月10日 山梨YMCA青少年センターにて)

会員ペンリレー 2018年の目標

甲府21ワイズメンズクラブ 駒田勝彦

毎年ながら新年になりますと今年の目標を考えます。

2018年の目標を考えていました。日本医師会のホームページに「高齢者の健康法」が記載されていたのでこれについて実行をしようと思います。ここで進められていますのが、

いちどく じゅっしょう ひゃっきゅう せんじ まんぼ

「一読・十笑・百吸・千字・万歩」ということです。

①「一読」とは

一日に新聞でも雑誌でもどのようなものでもまとまった文章を読もう。

これが知能機能のアップにつながるということです。

*私はこれはまあできることです。

②「十笑」とは

一日に十回くらいは笑おう。

笑う頻度が少ない人ほど認知機能が低下するリスクが大きいそうです。そして笑うことで免疫力が向上し、ガンの予防・進展を抑える効果があるといわれています。

*私は、考えてみても一日に何回笑う時があるか、ほとんどないことに気が付きます。何とか笑う機会を増やしていきたいと思います。

③「百吸」とは

一日に百回くらい深呼吸をしよう。(一度には十回くらい)

深呼吸は健康のもとといわれています、深呼吸をすることで肺の機能が高まり、自律神経が安定し、ストレス解消に役立つといわれています。

*呼吸法には、諸説あるようですが私が聞いた方法は、8拍息を吸う、8拍息を止める、8拍息を吐く方法がよいそうです。一日百回深呼吸・・・簡単なようですが頑張りたいと思います。

④「千字」とは

一日に千字くらい文字を書こう。

文字を書くことは、認知機能を高める効果があるといわれます。漢字を多く使うことが重要だそうです。

*パソコンのおかげで文章はほとんどパソコンです。自分自身文字を書くことが非常に少なくなっています。今年は一日千字挑戦です。

⑤「万歩」とは

一日に一万歩を目指して歩こう。

歩くことはメタボリック症候群の予防、治療に効果的であり、記憶力を高め、認知症の予防に有効であるといわれます。

*毎日一万歩・・・歩幅50センチ×100=5km 1km 15分×5=75分くらいの計算になりますが?何とか続けたいと思います。

これらの実行のために、『一日の時間の流れの中で「今日は何をして、何がしてないか」をチェックするために、

いちどく じゅっしょう ひゃっきゅう せんじ まんぼ

「一読・十笑・百吸・千字・万歩」を口の中で唱えてみて、まだやり残しているものがあればそれを片付けるようにしてみましょう。』とありました。

健康でなければ、ワイズメンズクラブもYMCAもそのほかの活動もできません。健康維持に努めたいと思います。

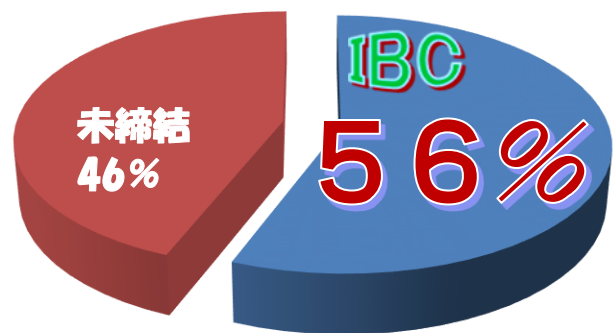
Think Locally, Act Globally

甲府21ワイズメンズクラブ 清藤城宏

私が出た高校では外国人による英語の授業があった。その授業は日本語使用禁止だったが、英語でやり取りできる同級生も結構が、話せない私は、劣等意識に苛まれたものである。言葉が話せて様々な国の方と付き合えたらどんなに楽しいだろうと、常に思っていた。社会人になってYMCAの英語学校に入った。海外へは20代に中学生のお世話でアメリカに行ったのが初めてだった。続いて聖書の世界をみたいとイスラエルへも行った。一年近いホームステイも引き受けたこともある。またJICAの仕事で家族をあげてインドネシアで2年半生活もした。第一線を退いてNGOのお手伝いをするようになり、マレーシア、スリランカ、インドネシア、タイ、フィリピンなど主にアジアで、住民参加型の森づくりに今もかかわっている。

ワイズメンズクラブに入ったのも国際的組織だから当然当クラブも国際交流があるのか、と期待して入会したが、残念ながら単独で交流を持っていなかったのはちと寂しかった。ワイズの信条に「国際的視野をもって、国際親善をはかろう」とあるように、ワイズではIBC(国際兄弟クラブ)の交流を推進している。

東日本区のIBCの現状を調べてみると、61クラブ中34クラブ(56%)がIBCを締結している。残念ながら我がクラブはIBCの面では平均水準に達していない。



東日本区のIBC状況

もう古いことばになるが、“Think Globally, Act Locally”(地球規模で考え、地元から行動せよ)という標語が環境問題の分野でよく使われた。今日、環境問題だけでなくグローバル

な視野で私たちの問題を考えながら、私たちの立っている場で行動することが大切な時代になってきているように思う。まさしくワイズの信条そのものである。学者政治家であった土井たか子氏は、「Think Globally, Act Locally だけでは不十分だ、Think Locally, Act Globally という面も必要だ。」と言った。私は若い方に「世界に飛び出せ!」、とこのことばを引用し話している。今日の問題をローカルな視点で考えながら、世界の人たちと一緒にグローバルに考えていくことは大切なことだと思う。是非わがクラブも、何とかIBCにこぎつけたい。そして外国の友と私たちが、一緒にグローバルに考えていく協働の力が与えられたら楽しいではないか。

松本ワイズメンズクラブ 第19回アジア賞授賞式

甲府21ワイズメンズクラブ 小澤公紀

アジア賞は、信州大学をはじめとする松本地区の大学、専門学校のアジア地域在籍の私費留学生対象に、日本留学を通して自国文化の再認識、不安、葛藤、希望、夢等の経験を発表してもらうものです。山梨YMCAを始めとする多くの協力を得て本年で19回目と歴史を刻み、地域にもすっかり定着しているイベントで、アジア地域の若者との交流も含めて大変有意義な事業であると感じました。

授賞式は12月16日(土)午後2時より長野県松本市にある「深志神社梅風閣」で行われ、甲府21クラブからは佐藤会長、駒田、茅野、松村(豪)、小澤(公)の5名が出席し、第1部「授賞式」、第2部「受賞者によるプレゼン」、第3部「交流会」の3部構成で若き留学生の思いに触れ、私たちも大きな元気をもらえました。

このような青年達との交流の機会を得ることで私達の社会経験を未来に伝える事も、また私達が現在の社会の方向を知る事も出来るなど大きなメリットを期待できます。

これからの国際交流の普遍化をもにらみ、さらにこの交流が継続発展することを願うとともに私たち甲府21クラブも近未来を背負う青年達との積極的な交流を心掛ける必要を感じた1日でした。



第19回アジア賞授賞式の集合写真
2017年12月16日＝長野・深志神社梅風閣

国際親善への第一歩

甲府21ワイズメンズクラブ会長 佐藤重良

ワイズの信条の中で「世界的視野を持って国際親善につくそう」と唱和していますが、このことが何を意味するものかと考えていました。私が住んでいる岩窪自治会は、山梨大学の留学生と毎年交流会を実施しています。山梨大学の国際交流センターの寮に35人住んでおり、留学生の皆さんに少しでも日本の文化を知っていただこうと、毎年餅つき大会を実施しています。留学生達には自国のお料理を作って頂き、岩窪自治会の人達に提供していただきます。私は国際交流とはここに何かのヒントがあると感じたのです。そこで留学生の一人に声をかけて12月10日の例会に招待したのです。マレーシアの学生が2名、日本人の学生が2名の計4名が参加してくれました。

問題になったのは、食事の点・ハラルのことでした。その国の宗教・文化により、食事にいろいろな制限があることに気が付きました。留学生から聞いたりして専任の板前さんに食事を用意してもらいました。留学生達も安心し、「おいしい」と言っていて食べていました。国際親善の始めの第一歩だと思いますが、まず一歩踏み出さないと何も進展しません。まずやってみようという行動すること、そして問題もあることを認識し、思考し、準備して実施、行動することが必要であると再認識しました。

YMCA便り 夢を現実に!

山梨YMCA総主事 露木淳司

あけましておめでとうございます。いよいよ山梨YMCAは新会館建設に向けて大きな一歩を踏み出します。候補地が絞られてきたことを受けて、将来計画検討委員会は3つの部会に分かれて細かい詰めに入りました。事業部会では、新会館で展開する事業計画について検討を進めています。現在の事業に加えて、外国人保育士による小規模英語保育所の開設を検討しています。総務・財務部会では、建設のための資金繰りや新法人開設に向けて検討を進めます。建築部会では、より多くの人に親しまれる外観と居心地の良い空間を提供すべく、建築のプロが智慧を集結させます。「新会館は是非木造で」「新会館にはチャペルを」「駐車スペースは極力広く」多くの思いを一つにして確実に夢を形にしていきます。

正式オープンには2020年春、そして2021年に75周年を迎えます。建設募金の目標7500万円で、5月から山梨県内外に向けて呼びかけを開始する予定です。皆さま、何とぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

■今後の予定

- | | |
|----------|--|
| 1月18日(木) | 第2例会 18:00~
会場:セレオ甲府5F「サロン・ド・エ克蘭」
住所:山梨県甲府市丸の内1-1-8
TEL:055-224-2611(代) |
| 2月6日(火) | 第1例会(山梨YMCA) |
| 2月10日(土) | あずさ部評議会(山梨県立図書館) |
| 2月20日(火) | 第2例会(山梨YMCA) |